

本日の学び：「イエスさまのまなざしのもとで」 テキスト：ヨハネ9章1-17節、35-39節（参照9章18-34節）

【理解の手がかりとして】

ヨハネによる福音書9章に登場する一人の男性は、生まれつき全盲の人であった。ある注解者はこう言う。「彼は光を一度も見ることがない人だった」と。——彼は道に座って物乞いをしていた。人の施しによって生活しなければならなかったのである。

そのような彼のそばを、まさに「光」であられる方がお通りになる。そう、「私は世の光である」(8:12)と言われたイエス様である。そしてイエス様のまなざしが彼を捉えた。弟子たちはイエス様に向かって、「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか」(9:2)と尋ねる。つまり、弟子たちは、このような不幸（生まれ持った身体の障害）がこの世にある、その原因は一体何か、と問うた。この彼らの問いの背景にあるのは、人間の不幸は皆、人間の罪に対する当然の罰であるという考え方である。そしてこの考え方は現代においても支配的な考え方、因果応報的考え方である。

ところがイエス様は全く違ったところでこの人を御覧になっている。イエス様はこう答えられた。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない」(9・3a)と。イエス様はこの人の不幸を、過去の責任、本人の罪や両親の罪の結果であるとお考えにならない。さらに驚くべきことに、弟子達が、そして私たちが全く思いに及ばなかった視点からお答えになった。「神の業がこの人に現れるためである」(9:3b)と。

これは本当に驚くべき答えである。弟子達がこの人を見ている目と、イエス様が御覧になっている目と、その間には、何という隔たりがあることか。ここには人間を見、また世界を見る見方の、非常に大きな転換が示されている。イエス様は、もはや人間と世界を、罪と罰というような、暗く重い鎖に縛られたものとして御覧にならない。そうではなくて、全く新しい光の中で御覧になる。つまり「命の解放」という光の中で御覧になるのである。

イエス様は、私達を本当に自由にして下さい。因果応報的原因探しではなくて、むしろ神の愛とそれによる救いへの喜びを与えて下さるお方である。「ただ神の業が現れるためである」とは何と偉大な言葉だろうか。そして私たちは、この言葉を語り得るのは、あの十字架刑に処せられることを神の御心として受け取って行かれたイエス様しかおられないことを知らなければならない。コロサイの信徒への手紙にこうある。「規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました」(2:14)と。

「わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれ

も働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である」(9:4-5) ——この盲人は、その光に直に触れて、そして光の中を歩む者へと変えられていくのである。

さて、それまで一度も「光」を見たことのなかった人が、光を与えられた後どうなったか。要点だけを述べると、彼の周りの人々、特に宗教的権力者たちは、この出来事を歓迎しなかった。彼らは、あらゆる手段を用いて、この出来事を否定しようとした。さらに、イエス様がこの癒しをなさったのが安息日であったので、「イエスは律法を犯した」と主張したのであった。

旧約聖書には安息日にはいかなる労働もしてはならないという戒めがある(出エジプト20:8-11)。しかしその日は、全ての命の創造の祝祭。主の安息に与るのが本来の目的。あらゆる命に対して優しくあるべき日、と言っても良い。しかし当時の宗教権力者たちは、その戒めの本意を曲解し、それに反した者には情状酌量の余地を認めようとしなかった。彼らは、安息日規程違反という一点に固執し、この「生まれつきの盲人」が癒された奇跡に喜びの一かけらも示さない。ゆえに彼らは、その出来事は神から来たものでなく「イエスは罪人である」とも主張した(24節)。

18節以下に、この「生まれつきの盲人」の両親が登場する。いや引き出されている、というのが相応しいと思うが、両親は「イエス崇拝者(『イエスはメシアなり!』との告白者)」と認められ会堂追放されることを恐れて、この事件に第三者を決め込む。しかし一方、その権力者たちや、実の両親のものとは全く異なる姿勢を、癒された「生まれつきの盲人」は表していく。彼は自分の経験から出発する。つまり「目の見えなかったわたしが、今は見える」(9:25)という事実と経験からである。

反対者たちは彼が出来事を証すればするほど頑なになり、より攻撃的に尋問した。しかし彼は臆することなくそれに立ち向かっていったのである。なぜなら、決して否定できない経験を彼はしたからである。

これまで地べたに座り施しを求めて手を伸ばして生きていたこの人の中に、確かな変化が起こっていることに気付かないだろうか。彼は、今や立ち上がっているのである。この中にもイエス様によって与えられる「自立」の力を感じる。

そして彼は不思議にもその議論の中でイエス様に対する理解を深めて行く。はじめは「イエスという方」(9:11)と呼んだが、次には「預言者である」(9:17)と言っている。そしてついにはイエス様との再会の中で、イエス様の導きを受けて「主よ、信じます」(9:38)と信仰告白するのである。——イエス様は言われる。「わたしが世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えなくなる」(9:39)と。

『聖書教育』より

「癒された人が見たものは、イエスとの関係に入れられた新しい自分でした。」（大人クラス）——
「イエス様との関係に入れられた新しい自分」という事柄について、その関係で変えられたこと、
救われたことについて分かち合ってみても良いだろう。